

ボツワナ共和国月報(2024年6月)

主な出来事

【内政】

- 憲法改正案の国民議会審議
- 与党BDP、党内調整を継続

【外政】

- マシシ大統領、米国を訪問
- マシシ大統領、韓国を訪問
- マシシ大統領、フランス及びドイツを訪問
- ツォフワネ副大統領、南アフリカを訪問
- アンゴラ大統領、ボツワナを訪問
- 米・アフリカ国軍幹部会議の開催

【経済】

- 干ばつの評価と緩和策
- 2024年第1四半期のGDP-実質ベースで前年同期比5.3%減-
- 2024年第3回金融政策会合-政策金利は2.15%へ引下げ-
- 5月インフレ率は3.0%-前月より0.1%下落-
- 4月の国際商品貿易統計-8か月連続の貿易赤字-

【日本関連】

- 住民参加型エコツーリズム開発(JICA技術協力事業)にかかる記念式典の開催

【内政】

○ 憲法改正案の国民議会審議

4日、5月20日から実施された、国民議会の特別会合における憲法改正案の審議が終了した。憲法によれば、3ヶ月後に、大統領府担当大臣の動議の提出を経て、国民議会の投票に付されることになっているが、第12国民議会は8月で解散される。審議中の法案に係る手続は、5年毎の議会解散の後には継続できないため、憲法改正案の先行きは不透明である。

○ 与党BDP、党内調整を継続

与党ボツワナ民主党(BDP)は、6月末の段階でも党予備選実施日を明らかにしていないが、その背景には予備選の候補者調整を党内で継続している影響があるようだ。予備選での候補者同士の争いを避けるため、自主的に選挙戦からの撤退を決めた者には出馬にあたり支払った費用の払い戻しを提案するなど、BDPは調整に躍起となっている。一部では、セラメ財務大臣と予備選を争うディコロティ保健相等が党内の調整対象になっていることを示すリストが出回っているが、BDPは有効性を否定している。カリ

オBDP事務局長によると、予備選は7月の党内合意された日程で実施される見通しで、日程は追って正式に通知される。

【外政】

○ マシシ大統領、米国を訪問

5月30日～6月3日、マシシ大統領は、ラスベガスで開催された世界最大の宝石展示会JCKショーに出席した。ボツワナにおいてダイヤモンドが経済発展の礎として果たした役割について発信する他、G7による対露ダイヤモンド制裁による影響について、ボツワナの立場を明らかにする機会となった。同大統領は、デビアス社のブースにて、ボツワナはデビアス社との長年にわたる関係をこれまで以上に重視し、パートナーシップをより有益なものにするためにあらゆる手段を講じると述べた。

○ マシシ大統領、韓国を訪問

4日～5日、マシシ大統領は、韓国のソウルで開催された2024年韓国アフリカサミットに出席した。同大統領は、アフリカは計り知れない可能性と機会、天然資源、若々しい人口、急成長する中産階級で満ち溢れているとし、アフリカ大陸自由貿易地域(AfCFTA)を支援するため、回廊の開発に積極的に参加するよう韓国に促した。同大統領は、サミットに出席した他、尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領との首脳会談、ソウル市長の表敬訪問、IT企業との懇談、韓国大学にて公開講演会を実施した。

○ マシシ大統領、フランス及びドイツを訪問

18日～22日、マシシ大統領は、フランス及びドイツを訪問した。フランスでは、アフリカにおける持続可能なワクチン製造を支援する資金調達手段であるアフリカワクチン製造アクセラレーター(AVMA)の立ち上げ等に参加した他、マクロン・フランス大統領と首脳会談を行った。ドイツでは、ボツワナ・ビジネス・ラウンドテーブル等、ハイレベルの会合に参加した。また、両国にて国際狩猟野生生物保護評議会(CIC)と交流した。

○ ツォフワネ副大統領、南アフリカを訪問

19日、ツォフワネ副大統領が南アフリカを訪れ、大統領代理としてシリル・ラマポーザ・南アフリカ大統領の就任式に出席した。本訪問には、モルワエン大統領府担当大臣が同行した。

○ アンゴラ大統領、ボツワナを訪問

14日、ローレンソ・アンゴラ大統領は、SADC議長としてボツワナを訪問した。同大統領は、SADC本部を訪問した他、マシシ大統領と首脳会談を実施した。マシシ大統領は、アンゴラのSADC地域の安全保障への貢献を賞賛した他、両国が合同常設協力委員会

(JPCC)を通じて二国間関係を強化することを再確認した。

○米・アフリカ国軍幹部会議の開催

25～26日、ハボローネにて、ボツワナ及び米国の共催により米・アフリカ国軍幹部会議が開催された。マシシ大統領は会議での演説で、アフリカ大陸において憲法で選ばれた政府の民主主義が度重なるクーデターに曝され、また、軍国化の蔓延が安定と繁栄を損なうのみならず、平和と発展を希求する民衆の障壁となっていることに対し、緊急に向き合う必要があることを強調した。

【経済】

○干ばつの評価と緩和策

20日、ボツワナ政府は、今般の干ばつの影響評価として、今季の雨季の降雨量が例年の平均以下、主要河川は過去10年間で最低の水位を記録、穀物生産量は穀物需要の6%程度、干ばつに関連した家畜の死亡数は16,000頭超(推計)、乾燥と高温により各地では火災などの甚大な被害が発生していると発表した。これを受け、各省は、本年7月1日から翌年6月30日までの間、農家・畜産農家に対する助成金交付や栄養食品貯蔵など干ばつ緩和策を講じることとしている。

○2024年第1四半期のGDP-実質ベースで前年同期比5.3%減-

2024年第1四半期の名目GDPは、646.317億プラとなり、前年同期617.878億プラから4.6%の増加となった。部門別寄与率は、公共・防衛が17.4%と最も大きく、鉱業・採石12.5%、卸売・小売12.1%、建設11.8%と続いている。他方、ダイヤモンド貿易及び鉱業・採石部門等の落ち込みにより、実質GDPは、前年同期比で5.3%の減少となった。前年同期比での実質ベースでの減少は2020年第4四半期以来となった。

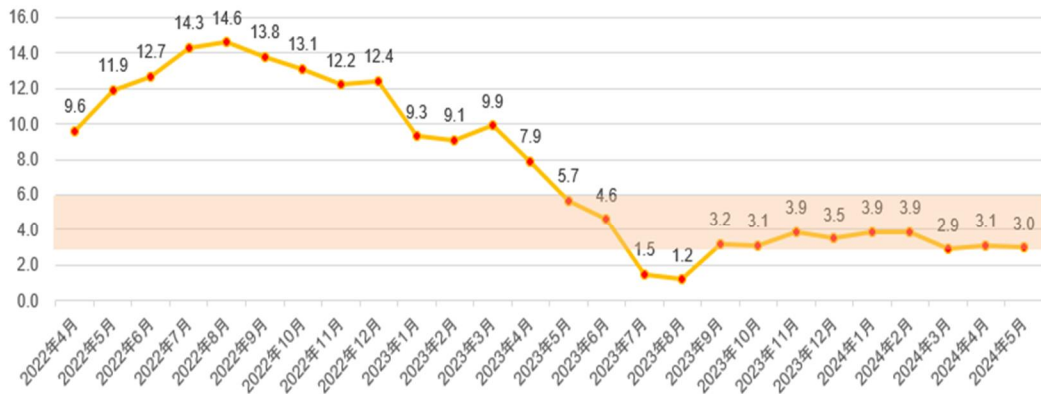
○2024年第3回金融政策会合-政策金利は2.15%へ引下げ-

13日、ボツワナ中央銀行の金融政策委員会(MPC)は、金融政策金利(MoPR)を現行の2.4%から2.15%に引き下げた。この決定に際し、同委員会は、インフレが同行の中期目標の3%から6%の範囲に収まっていること(後述)、国内の実質経済成長率が2022年の5.5%に対して2023年は2.7%と景気が弱含みであることなどが金利引下げ決定の判断理由としている。

○5月インフレ率は3.0%-前月より0.1%下落-

5月の年間インフレ率(前年同月比)は3.0%となり、前月のインフレ率(同)の3.1%から0.1%下落した。分野別寄与度は、上位から雑貨・サービス(0.8%)、運輸(0.7%)、食品・非アルコール飲料(0.6%)であった。

(図: 近年のインフレ率の推移)



注: ボツワナ銀行中長期インフレ目標 (3%から6%)

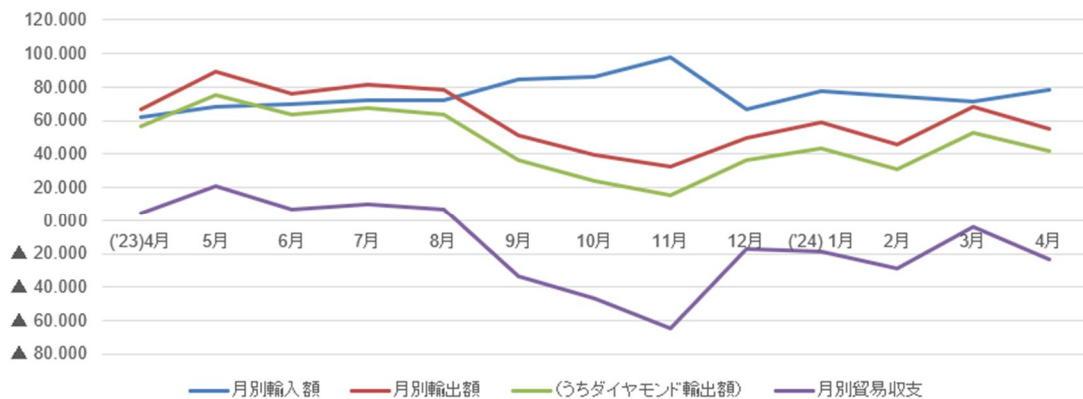
○ 4月の国際商品貿易統計-8か月連続の貿易赤字-

4月の輸入総額は78.494億プラとなり、前月の71.433億プラ(改定値)から9.9%の増加、一方で輸出総額は、55.275億プラとなり、前月の67.796億プラ(改定値)から18.5%減少した(図)。この結果、同月の貿易収支は23.129億プラの赤字となり、2023年9月以来8か月連続の貿易赤字となった(同)。

(図: 月別貿易収支の推移: 2023年4月から2024年4月)

	('23)4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	('24)1月	2月	3月	4月
月別輸入額	62.159	68.419	69.480	71.743	71.990	84.734	85.977	97.378	66.860	77.401	74.484	71.433	78.494
月別輸出額	66.363	89.226	75.967	81.702	78.498	50.938	39.140	32.428	49.455	58.609	45.876	67.796	55.275
(うちダイヤモンド輸出額)	56.203	75.312	63.680	67.778	63.615	35.999	23.870	15.282	36.332	42.950	31.173	52.531	41.550
月別貿易収支	4.204	20.807	6.487	9.959	6.508	▲33.796	▲46.843	▲64.950	▲17.405	▲18.793	▲28.608	▲3.837	▲23.219

注)2024年4月は速報値



【日本関連】

- 住民参加型エコツーリズム開発(JICA技術協力事業)にかかる記念式典の開催
独立行政法人国際協力機構(JICA)は、ボツワナ北部のチョベ・エンクレーブに、当該

コミュニティの歴史と豊かな文化特性を伝えるためのランドマークを設置したと発表した。環境・観光省森林・草原資源局によるエコツーリズム・パイロット・プロジェクトの一環で（当館注：JICA技術協力プロジェクト「ボツワナ国マスタープラン策定を通じた森林・草原資源の保全と持続可能な利用のための能力強化プロジェクト」による活動の一つ）、同地域の5つの村に共同組合を設立し、各村においてエコツーリズム・モデル導入の支援が行われた。エコツーリズムを解説する案内看板及び同地域のランドマークとなるモニュメントが設置され、同式典にて除幕式が行われた。

（了）